

令和 5 年

北海道特用林産統計

令和7年3月

北 海 道

目 次

●	〈概要編〉	
I	国内の主な特用林産物の生産動向	1
II	北海道の主な特用林産物の生産動向	
1	きのこ類	2
2	木炭・木酢液	3
3	薪	4
4	山菜類	4
●	〈資料編〉	
I	特用林産物全般	
1	主要特用林産物生産量及び生産額の推移	5
2	主要特用林産物の都道府県別生産順位	6
3	主要特用林産物生産量の推移（全国対比）	7
4	特用林産物生産額の推移（全国対比）	8
5	主要特用林産物生産者数の推移	8
II	きのこ類	
1	生しいたけ生産量における原木栽培と菌床栽培の割合の推移	9
2	生しいたけ生産規模別生産者数の推移	9
3	生しいたけ生産者の職業別内訳の推移	
	（1）原木栽培	10
	（2）菌床栽培	10
	（3）生しいたけ合計	10
4	しいたけ原木の調達ルート	10
5	しいたけ原木価格の推移	10
6	しいたけ原木伏込量の推移	11
7	菌床製造用おが粉の調達ルート	11
8	主なきのこ類の出荷先内訳	11
9	道内主要市場における主なきのこ類の産地別入荷動向の推移	12
10	一世帯当たりきのこ消費量の推移（二人以上の世帯）	12
III	木炭等	
1	木炭等用途別生産量の推移	13
2	木炭等品目別生産者数及び窯数の推移	13
3	木炭輸入量の推移	13
IV	山菜類、その他	
1	山菜類生産量の推移	14
2	道内主要市場における主な山菜類の産地別入荷動向の推移	14
3	その他の特用林産物の生産量の推移	14
V	令和3年主な特用林産物の市町村別生産量順位	15

〈特用林産物とは、〉

主として山林原野において産出されてきた産物で、きのこ類、山菜類、薬用植物、果実類、樹脂類、木炭、薪及び桐など、一般用材以外のものをいいます。

(注)

平成30年からの統計調査結果より、調査対象者数が2以下の場合には、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。

なお、全体(計)から差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合は、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「X」表示しています。

こちらの秘匿措置は林野庁作成の特用林産基礎資料と同様の取り扱いとしています。

<概要編>

I 国内の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

令和5年のきのご類生産量は435,892トン(前年比95%)で前年より減少となった。

品目別では、「なめこ」と「ひらたけ」が微増しているものの、他のきのごは横ばいか減少している。

都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、がきのご類の主産地となっている。

2 木炭等

令和5年の木炭(白炭+黒炭)生産量は、6,315トン(前年比93%)で、前年より減少しており、白炭は横ばい、黒炭と木酢液は前年より減少しているが、粉炭は7,922トン(前年比155%)で増加している。

都道府県別では、順に、「木炭(白炭+黒炭)」が高知県、岩手県、和歌山県、北海道、「粉炭」が長野県、島根県、岐阜県、奈良県、宮崎県、岩手県、北海道、「木酢液」は岩手県、宮崎県、熊本県、静岡県、福島県、鹿児島県、北海道が主産地となっている。

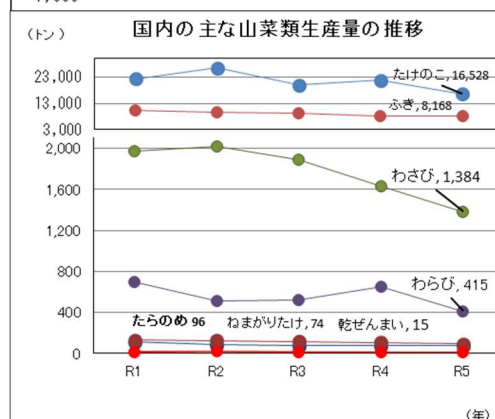
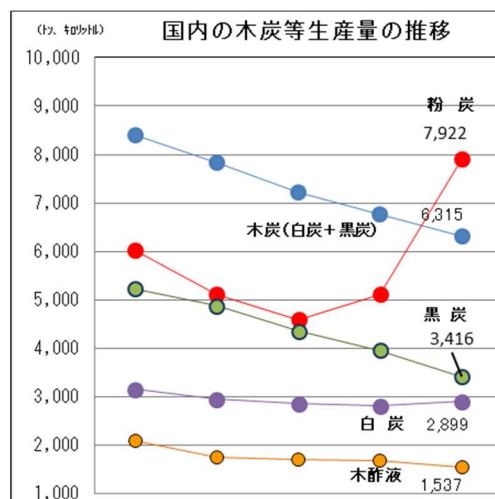
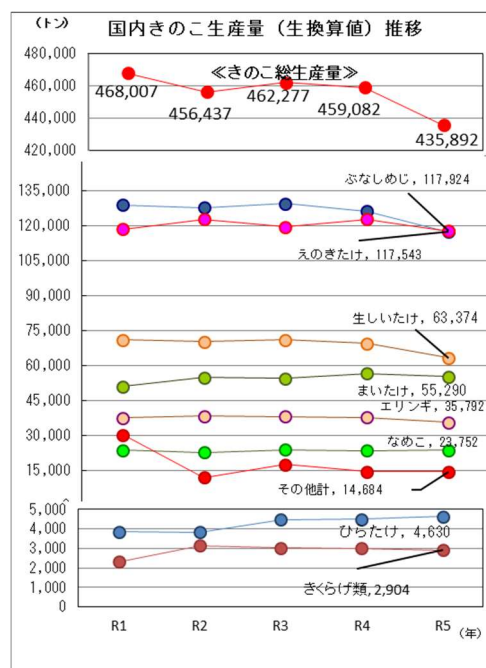
3 山菜類

令和5年の山菜類品目別の生産量は、「たけのこ」の16,528トン(前年比76%)、ほか山菜は横ばいか減少している。

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県が山菜の主産地となっている

4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。



II 北海道の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

北海道では主に、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「エリンギ」「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和5年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこの生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」と「なめこ」が第5位となっている。

(1) 生産量

令和5年のきのこ類生産量(生換算値)は14,998トン(前年比92%)で、前年から減少した。

品目別では、「えのきたけ」、「まいたけ」「乾しいたけ」「えぞ雪の下」は前年より増加しているが、他のきのこは前年と横ばい、もしくは減少している。

市町村別では、苫小牧市、愛別町、東川町が主産地となっており、この3つの地域で道内生産量の約63%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、約97%が菌床栽培となっている。

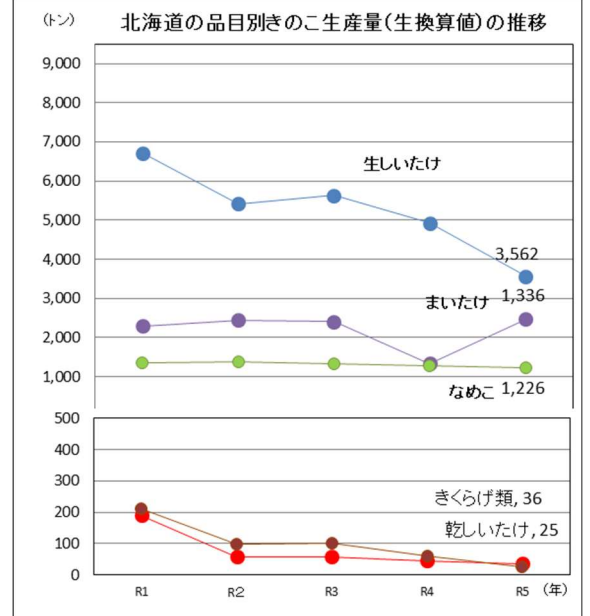
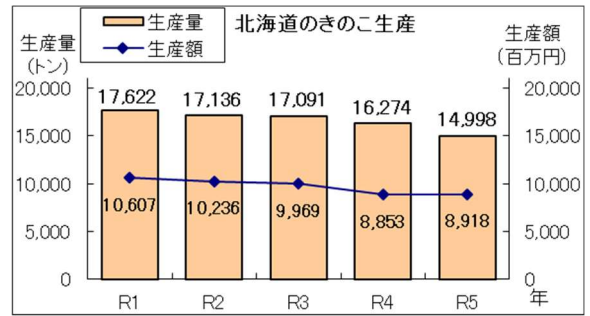
(2) 生産額

令和5年のきのこ類生産額は約89億円(前年比101%)で、前年よりも約1億円増加している。

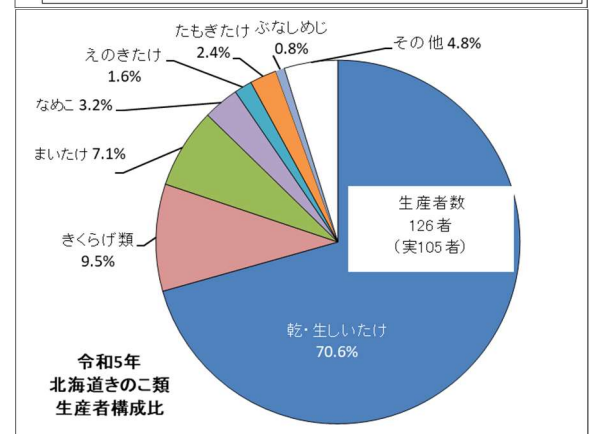
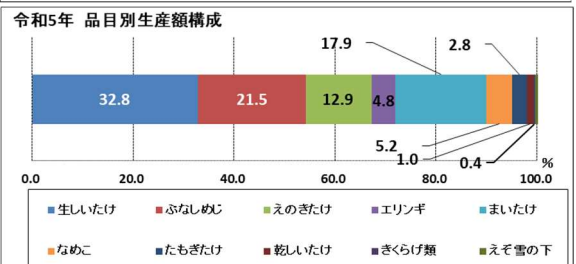
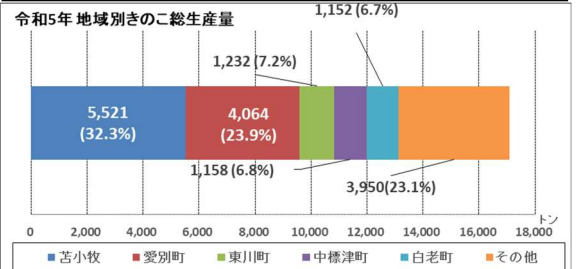
また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が32.8%、「ぶなしめじ」が21.5%、「えのきたけ」が12.9%を占めている。

(3) 生産者数

令和5年のきのこ類の延べ生産者数は、126者と前年よりも7者減少し、実生産者数も105者と前年より17者減少している。品目別の延生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が89者(原木栽培36者、菌床栽培53者)で70.6%、以下、「きくらげ類」が12者で9.5%、「まいたけ」が9者で7.1%、「なめこ」が4者で3.2%となっている。



上記グラフでは、えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、たもぎたけ、えぞ雪の下、ひらたけは秘匿措置としているため未表示。



2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭(白炭と黒炭)が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成22年以降生産されていない。

令和5年の木炭(白炭と黒炭)生産量の都道府県別順位では、高知県、岩手県、和歌山県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」のみの生産量は岩手県に次いで全国第2位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用(土壌改良等)に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用(土壌改良や植物活性等)のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されているが、ともに生産量は減少している。

(1) 生産量

〈木炭(黒炭)〉

令和5年の木炭生産量は430トン(前年比68%)で、前年より減少している。

市町村別では、池田町、森町、釧路市、音更町が主産地となっている。

〈粉炭〉

令和5年の粉炭生産量は126トン(前年比53%)で、前年より半減している。

市町村別では、下川町、中川町、池田町が主産地となっている。

〈木酢液〉

令和5年の木酢液生産量は25kℓ(前年比52%)で、前年より半減している。

市町村別では、白老町、森町、下川町が主産地となっている。

(2) 生産額

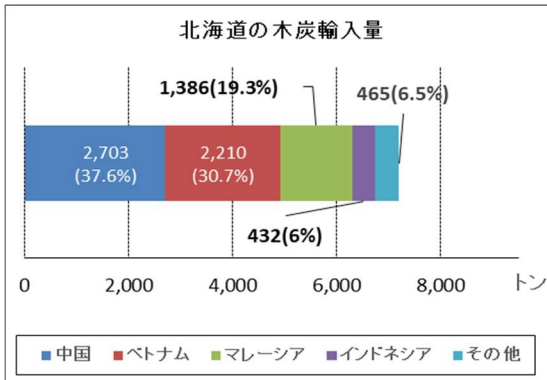
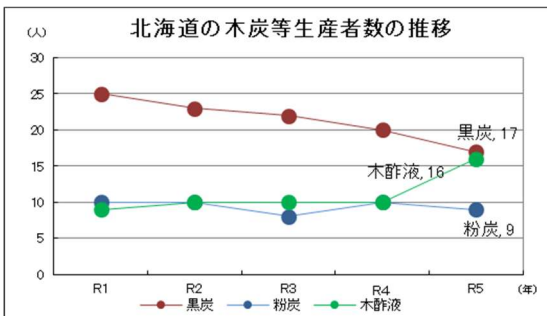
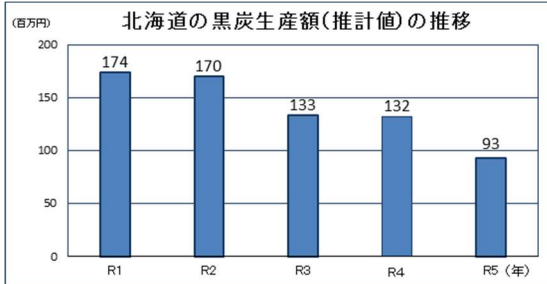
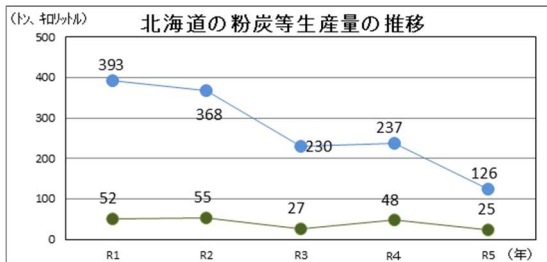
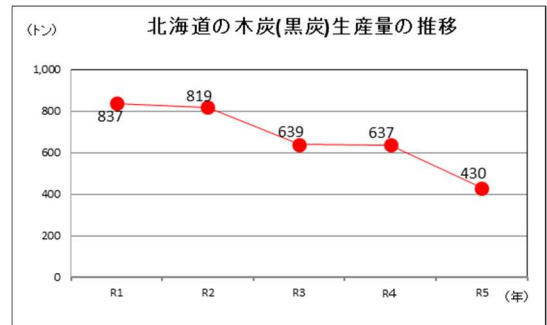
令和5年の木炭(黒炭のみ)生産額は9千3百万円(前年比70%)で、前年より減少している。

(3) 生産者数

令和5年の木炭等生産者数は、木炭(黒炭)が17者で前年より3者減少、「粉炭」は9者で前年から1者減少、「木酢液」は16者で前年より6者増えている。

(4) 木炭の輸入

北海道における令和4年の木炭輸入量は7,196トンで前年より100トン増加している。輸入量の国別割合は、中国が2,703トンで最も多く、次いでベトナムが2,210トン、マレーシアが1,386トン、インドネシアが432トンとなっている。



3 薪

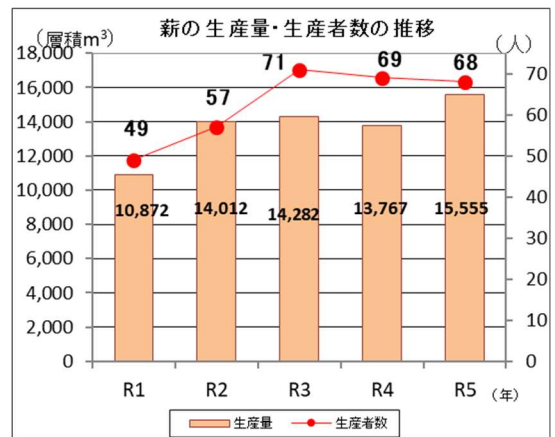
(1) 生産量

令和5年の薪生産量は、15,555立方メートル(前年比113%)で、前年より増加となった。

市町村別では、旭川市、札幌市、鶴居村が主産地となっている。

(2) 生産者数

令和年の生産者数は68者で前年より2者減少している。



4 山菜類

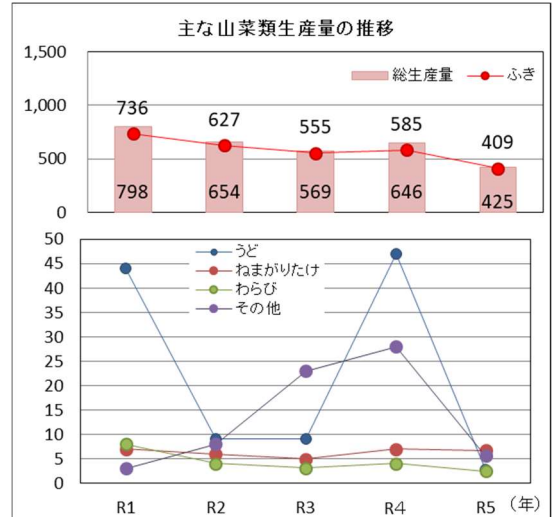
北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらめ」、「こごみ」なども生産されている。

(1) 生産量

令和5年の主な山菜類生産量は425トン(前年比66%)で、前年より221トン減少している。

市町村別では、「ふき」は西興部村、「うど」は芦別市、「ねまがりたけ」と「わらび」は蘭越町が主産地となっている。



2) 生産額

令和5年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約1.6億円(前年比76%)で、前年より約5千万円減少している。

(3) 生産者数

令和5年の主な山菜類の実生産者数は7者と前年より5者減少している。

